

28年4月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年4月1日～ 28年4月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		28/4月	5月	6月
伐採動向	スギ	△ 41.7	△ 30.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	カラマツ	△ 37.5	△ 37.5	△ 25.0
	エゾ・トド	△ 50.0	33.3	50.0
出荷・販売動向	スギ	△ 30.0	△ 12.5	0.0
	ヒノキ	△ 16.7	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 37.5	△ 37.5	△ 25.0
	エゾ・トド	△ 83.3	△ 66.7	0.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 25.0	16.7	△ 33.3
	ヒノキ	△ 25.0	△ 50.0	△ 50.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 37.5
	エゾ・トド	△ 66.7	△ 66.7	△ 83.3

・スギ、ヒノキ及びカラマツの伐採は、3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは4月の減少が、5月、6月は増加。

・スギ、及びエゾ・トドの出荷は4月、5月の減少が、6月は横ばい。ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して減少。

・スギの立木在庫は4月の減少が、5月は増加、6月は再び減少。ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・間伐、5月中旬から主伐あり（北海道）。
- ・トドマツ間伐を実行中、融雪期で作業環境が悪いが、翌月以降は作業環境が回復すると伐採はやや増加（北海道）。
- ・国有林素材生産請負の入札が5月から順次開始されるため、伐採は増加（北海道）。
- ・5月に国有林立木入札、ヒノキのみ、スギ、カラマツなし（中部）。

(出材・販売動向)

- ・年度替りと融雪時の搬出抑制のため、出材は減る（北海道）。
- ・融雪期で運材車が通行不可のため、当月と翌月の出材見通しは減少、翌々月より販売予定、出材調整はなし（北海道）。
- ・請負主体のため、今の所は販売予定はない（北海道）。
- ・生産請負のみ、販売なし（中部）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木は伐採とともに減少、新年度の国有林公売で積極的に購入予定（北海道）。
- ・手持ち立木はない（北海道）。
- ・年度替りで、国有林事業は終了し、手持ち立木伐採に入る（アカマツ伐採）（東北）。